

<訪問教育目標>

○重点目標

- ①一人一人のもてる力を最大限に引き出しながら、児童生徒が生き生きと学習に取り組めるよう、個に応じた指導の充実に努める。
- ②様々な人との関わりや体験を通して、児童生徒の豊かな生活の広がりや心身の安定を目指す。
- ③保護者や関係機関（施設・医療等）との連携を深め、教育の充実に努める。

○具体的方策

重点目標①に対して

- ・一人一人の教育的ニーズを把握し、病状や体調、発達段階や生活年齢、生活環境に応じた指導内容や手立てを講じる。
- ・「訪問教育の手引き」や「教材データベース」を活用し、授業改善に努める。

重点目標②に対して

- ・スクーリング、校外学習、交流及び共同学習、遠隔通信による交流等において、友達学級や交流相手校の担任、施設担当者との連携を深め、指導の充実に努める。
- ・自分の気持ちや意思の表出、外界への主体的なかわりができるようになるため、身近な人とのやり取りの場を積極的に設けたり、ICT・AT機器を活用したりして、学習の充実に努める。

重点目標③に対して

- ・保護者面談や訓練見学、合同評価会において、個別の教育支援計画を活用しながら目標や課題を整理し、より効果的な指導を行う。
- ・保護者や関係機関との連絡調整を丁寧に行い、安全に修学旅行や校外学習を行ったり、円滑に進路に関わる手続きを遂行したりする。